

山口県文書館に寄贈

徳山藩絵師朝倉家の文書類百三十四点

会員 栗崎 健

朝倉家は江戸時代、代々徳山藩絵師として活躍した家系で特に南陵、震陵親子は有名である。

令和四年（二〇二二）八月、朝倉家墓所墓仕舞いを機に、朝倉家本家最後の当主故朝倉喜作氏長女小松真理子氏は、朝倉家に伝わってきた多数の貴重な史料を山口県文書館に寄贈された。

文書館研究員によりいち早く読み解かれ、昨年、一般公開され閲覧を可能にしていた。それにより、南陵の詳細な事績や、南陵の孫練治（光業）による献功隊の史料、また奥羽蝦夷の様子などを見ることができ、目録にある一三四点の史料の一部を紹介する。

一、年代記・履歴

*宗林軒様御控物抜書

寛政五〜文久二年頃「一七九三〜一八六二」

*朝倉家年代記極秘書 安政三年「一八五六」書
（保延五〜明治三六年「一一三九〜一九〇三」）

二、譜録

三、他家系図等

*御蔵本御記録写（萩雲谷等恕方弟子入りの事等）

四、勤志向記録

*官辺諸控 文久二年「一八六二」一月（〜慶応三年）

*光業勤志向諸控

文久二年〔一八六二〕 一二月（慶応元年）

* 御居間富田御殿御住居御用諸控（勤向）

天保一四年〔一八四三〕（寛政二〜天保一三年）

* 官事諸控（勤向諸控）

嘉永七年〔一八五四〕 一月ヨリ（文久元年）

五、測量方御用

* 〔絵図調御用関係記録綴（測量方御領内絵図御用他）

寛政一二〜文化六年〔一八〇〇〜一八〇九〕

表紙は「遠石山浴名仕出覚控」とあり

* 〔測量方御領内絵図御用関係帳簿綴〕

表紙は「測量方丁数里数覚控」（文化頃）

六、献功隊

* 献功隊諸控 慶応四〜明治二年〔一八六八〜六九〕

* 献功隊奥羽蝦夷出張中風説 四冊之内巻

明治二年〔一八六九〕

* 献功隊奥羽蝦夷出張中風説 四冊之内巻

明治二年〔一八六九〕

七、土地（図面含む）

* 田畠諸向控 安永六〜天保六年〔一七七七〜〕

* 泉原里丸山櫛地新開図 文化九年〔一八一三〕

* 舞車村図 天保六年〔一八三五〕

* 舞車宗林軒屋敷図 天保八年〔一八三七〕 八月

八、書状

* 小田百谷（海儼） 書状↓朝倉震陵（牧太）

* 作大夫書状↓牧太

* 本城書状↓震陵先生（牧太）

* 阿蘭陀油絵具之法伝書 原南嶺齋↓朝倉震山

文政七年〔一八二四〕 神無月七日

九、絵図

* 大坂御陣御双方共御陣取図 冬御陣之節図也

（元和元年〔一六一五〕）

* 砲車前面後面布列之図

* 施條四斤砲榴霰彈全図

* 東照宮尊像下絵（村井喜右衛門頼につき調進）

天保三年〔一八三二〕 一月

以上抜粹 十〜十四 全省略（次頁朝倉家文書目録鑑）

朝倉家文書目録

1. 収蔵の経緯

令和四年度（二〇二二）に子孫から寄贈された。

2. 朝倉家について

朝倉家は、江戸時代、徳山藩に仕え代々御用絵師として活躍した家。中でも一八世紀後期から一九世紀中期に活躍した絵師、四代光世・朝倉南陵は著名。

四代光世・朝倉南陵（等圭・瑚南、天保一四年没、八八才）は、明和四年（一七六七）に家督を相続（三人扶持、格式御絵師）、天明五年（一七八五）一二月に加増され禄高二五石となる。はじめ菅江嶺に学び、次いで萩藩の雲谷等徴・等竺に師事し、さらに江戸で谷文晁に学んだ。歴代徳山藩主肖像画をはじめ、主な作品、業績には次のようなものが知られている。

寛政三年（一七九一）「領内大絵図」

寛政五年（一七九三）「遠石八幡宮御祭礼絵馬」

寛政九年（一七九七）「花岡八幡宮御祭礼絵馬」

寛政一一年（一七九九）「徳山藩主肖像」（五・六代）

文化七年（一八一〇）「徳山東山榎地新開図面」

文政一三年（一八三〇）「歴代藩主肖像」七幅

また、文化期、伊能忠敬による全国測量地図作成事業の一行が防長両国にも来訪するが、これに係り光世は文化三年（一八〇六）に「測量方御絵図並其他御用」、「測量方奈古大井図面其外共御用」、同六年（一八〇九）に「測量方二付絵図其外共御用」、文化一〇年（一八二三）に「須万村測量方御用」を藩から仰せ付けられている。

文化七年（一八一〇）に南陵を名乗る。長年の功績が認められ、文政元年（一八一八）六月に一代御中小姓格、同八年（一八二五）二月に永代中小姓格となる。

五代直逞（牧太、震山、等璘、明治四年没、七四才）

朝倉震陵は南陵三男。天保二年（一八三一）家督相続。初め萩の雲谷等徴に学び、のち江戸に出て谷文晁に随う。天保七年（一八三六）中小姓格。同九年（一八三八）震陵を名乗り、同一三年（一八四二）等璘を号する。
元治元年（一八六四）五月隠居。

六代光業（練治）朝倉南嶺は元治元年五月家督相続。

前年文久三年（一八六三）三月、家督相続前の御雇身分で「御親兵役」を命じられ、徳山藩兵の一員として上京、四月一日の孝明天皇による石清水八幡宮行幸の際には本藩長州藩兵とともに供奉。そののち京都での八月一八日政変も経験した。

戊辰戦争時には徳山藩献功隊の一員として箱館戦争にも参戦。

明治三年（一八七〇）の脱退騒動時には鎮圧軍の一員として活躍し、のち褒賞を受けている。

3. 数量 一一九件一三四点

4. 年代 保延五年（一一三九）～平成二年（一九九〇）

5. 文書の内容

文書は江戸時代、四代南陵～六代南嶺時代のもので大半が占められる。内容から一四の主題を設定し配列した。主要なものとは以下のとおり。

一・年代記・履歴

保延五年（一一三九）に始まる朝倉家の年代記が残る（2「朝倉家年代記極秘書」）。五代直逞が安政三

年（一八五六）に作成したものだが、のち明治三六年（一九〇三）まで書き継がれている。年ごとの主要な出来事を書きあげられている。1「宗林軒様御控物抜書」は南陵時代の記事をまとめたもの。ただし、阿武氏・小貫氏に関する記事も含む。

二・譜録

徳山藩に提出した朝倉家譜録の控。初編～五編草案がある。天保期に譜録提出延期を藩に願出た際の文書も残る。

四・勤仕向記録

藩への勤仕向きに関する内容をまとめた記録。22「官辺諸控」のほか、藩からの通達類、藩士として属する組内での通知類などをまとめたものなどがある。

五・測量方御用

南陵が伊能忠敬の全国測量地図作成事業に関わったことに関して残された文書記録。参考資料とされたであろう享保期「地下上申」の写しも含む。

六・献功隊

献功隊は幕末維新期の徳山藩諸隊のひとつ。明治元年八月朝氣隊・斥候銃隊・武揚隊・順詳隊が合併して結成。同年十一月戊辰戦争で函館に出戦、同三年六月廢隊（『山口県史史料編 幕末維新六』別冊「長州書体一覽」）。六代光業（練治）がこの隊長となる。

献功隊に関する記録としてもっともまとまったものが残る。なかでも36「献功隊奥羽蝦夷出張風説」には、同隊が箱館戦争に参戦したことに係り、箱館・蝦夷地に関する彩色の絵図が複数残されている点で貴重。

七．土地

50「舞車宗林軒屋敷図」などによれば、朝倉家は徳山村舞車（舞車村）に屋敷地を構えていたと考えられる。舞車の絵図面のほか、舞車の御立山を櫛山として利用することに関する文書などがある。なお土地関係の文書に名がみえる吉左衛門・吉平らは、「朝倉様御内」「朝倉南陵様御内」などの肩書があり、ここから朝倉家との関係が推測できる。

八．書状

一九世紀の文人小田百谷（海僊）が震陵に宛てた書状（58）など、特に震陵時代の交友関係を示す書状が残る。蛮画師と称し油彩画も得意としたという原南嶺斎から震山（震陵）に宛て、油絵具の製法を伝えた「阿蘭陀油絵具之法伝書」（67）もここに納めた。

九．絵図

武者図・白絵観音図の下絵などが多数残るほか、70「砲車前面後面布列之図」・71「施條四斤砲榴霰彈全図」など武器関係の図もある。

*その他の主題は、三．他家系図、一〇．文芸、

一一．仏事、一二．書籍等、一三．風聞、一四．諸事

6．参考文献

- ・『徳山市史上』第四編近世の徳山 第七章文武の興隆
- ・吉田祥朔『近世防長人名辞典』朝倉南陵・朝倉震陵の項
- ・小川宣『周南風土記』第三章
- ・栗崎健「徳山藩絵師朝倉南陵と朝倉家墓所墓仕舞」

（『徳山地方郷土史研究』四四号）

〈山口県文書館「朝倉家文書目録」鑑全文引用〉